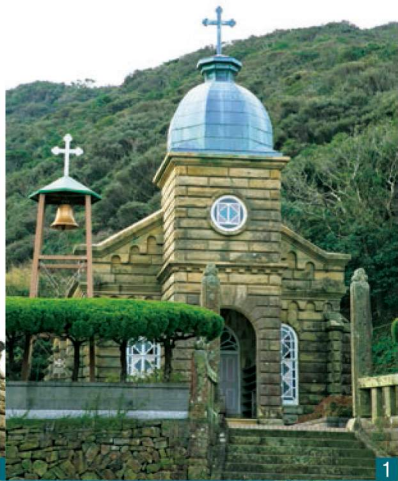




赤尾集落で壁に石を張り回した腰板石を発見。周辺は、かつて石材業が盛んだった



「五島うどんの里」の前には海童神社。鳥居奥のナガスクジラのアゴ骨が捕鯨文化を今に伝える



1

2



3

1 内部には花の彫刻があらわれており“花の御堂”の呼び名もある「頭ヶ島天主堂」。設計は鉄川与助で大正8年（1919）築。2 砂岩質の五島石は加工しやすく、天主堂裏側には謎の窓の跡も。3 頭ヶ島天主堂の墓地の向こうにロクロ島。野石を積んだだけのような墓もあった



着地型ツアー 「五島列島キリシタン物語～上五島編～」

地元ガイドが案内する有川発着のツアー。頭ヶ島周遊クルーズ、教会の見学などのほか、五島うどん地獄炊きと海鮮丼の昼食付き。最少催行人員2名、予約は3日前までに。

- 中通島「五島うどんの里」9時50分集合→頭ヶ島周遊クルーズ→頭ヶ島天主堂→海童神社（車窓）→昼食→蛤浜海水浴場→石油備蓄基地（車窓）→大曾教会→五島うどんの里15時着。＊タクシー移動。悪天候等によりクルーズが運航できない場合は、上五島石を使った小物作り体験に変更
- 催行日＝4月1日からの木・金・土・日曜
- 旅行代金＝9800円
- 申込み・問合せ＝新上五島町観光物産協会 ☎0959・42・0964

着ることがひしひしと伝わった。海側からこの教会を見てみよう、今春催行予定の「五島列島キリシタン物語」上五島編」の頭ヶ島周遊クルーズに特別参加。沖合に浮かぶロクロ島で船長の竹村克成さんは船を留め、「このロクロ島からも岩を切りだし、頭ヶ島天主堂に使ったんよ。一度、素潜りしたとき、大きな四角い岩が海底に沈んだから、誰かがへまして落っこしたんだなあ（笑）」。

最後は「五島うどんの里 遊麺三昧」で、五島うどんの地獄炊き（釜揚げ）を手繰って今回の旅は大団円。聞くと、五島うどんは遣唐使により大陸から伝わったとか。そう、日本の西端にある五島は外国文化伝来の玄関口でもあった。ゆえに幾層もの風習や文化が重なり、独特の魅力を生み出しているのだろう。うーん、奥深き五島の旅！

五島うどんの里

☎0959・42・2655／8:30～17:00（遊麺三昧は11:00～14:00）、年末年始休／長崎県南松浦郡新上五島町有川郷428-31／有川港から徒歩3分

かしら が し ま 頭ヶ島天主堂

☎095・823・7650（長崎の教会群インフォメーションセンター）／9:00～17:00、見学は要事前連絡、ミサの時間の第2・4日曜15:00～17:00休／無料／長崎県南松浦郡新上五島町友住郷638-1／有川港から車25分

つばき体験工房

☎0959・55・3219／9:00～16:00、8月13～16日、12月29日～1月3日休／体験2390円～／長崎県南松浦郡新上五島町小串郷1071-2／有川港から車25分



2

3

1 船上から望む頭ヶ島天主堂も美しい。海は澄み、海底の白砂も見えた。「キビナのきらきらした群れが見えることも」と船長の竹村さん。2 頭ヶ島大橋をくぐり沖へ出るクルーズの船。3 同天主堂建設のため岩を切りだしたロクロ島。船で近寄ると四角い楔を打った跡も！

1 島内に椿が自生し椿油の生産が盛ん。「つばき体験工房」では杵で種を砕き、セイロで蒸し、搾油機で抽出。完成品は持ち帰りOK。2 抽出は力があるが完成時の達成感は倍増



2

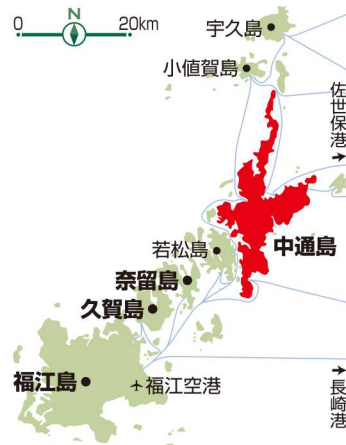


1 「五島うどんの里」では、地元の各製麺所のうどんなどを販売。2 同施設の「遊麺三昧」で味わえる地獄炊き750円。生卵と醤油、アゴだしの2つのつゆでいただく

多くの教会と椿が彩る十字型の島

な か ど お り じ ま

中通島



1



2

牢屋の窄殉教記念教会へ。

「明治元年（1868）、弾圧のため潜伏キリシタン200人余がこの地にあった小屋へ8カ月も押しこまれました。畳1枚に換算すると17人。ウジに下腹を噛まれ亡くなった少女もいました」

続いて、同島の旧五輪教会堂へ。山道を下りた先、2世帯のみの海際の集落到に教会堂はあった。木造瓦葺きの教会は民家のようなだが、内部は蝙蝠屋根の立派な教会建築。聖体拝領台は大浦天主堂と同じ造りで、信徒が大浦に行つて造りを描き移してきたとの説も。

海上タクシーで移動した奈留島では、江上天主堂が心に残った。

「中の柱の木目、実はこれ、竹べらで木目模様を描いてあるんです」

見れば、窓はステンドグラスでなく上から絵具の類で塗ったもの。お金がないなか、何とか教会を立派に見せたいという信徒の思いが細部に宿る。

フェリーと車でさらに北上した中通島は、五島列島で2番目に大きい島。最終日はこの島を拠点とした旅だ。橋で繋がる頭ヶ島には、五島随一の美しさを誇る頭ヶ島天主堂が建つ。銅板葺きの屋根、セピアの砂岩が織りなすシックな佇まいには一目惚れ。内部もまた美しく、船底天井には花が彫刻されている。祭壇脇には花が飾られ、掃除も行き届いており、信徒に大切にされ